

変わりゆく薬剤師像を求めて 女子大学薬学部開設記念シンポジウム

女子大学薬学部が、いよいよ4月からスタートします。薬剤師像が大きく変わろうとしている中、本学薬学部は医療薬学科単一の学部として、社会から求められる薬剤師の養成に取り組みます。どのような薬学部教育が求められているのか。このような問いを自らに投げかけるために、本学では去る10月23日、「変わりゆく薬剤師像を求めて」と題し、薬学部開設記念シンポジウムを大阪で読売新聞社の後援を受けて開催しました。

個々の患者に適した薬を

基調講演で医師であり登山家でもある今井通子氏は、「人は本来森で生活するのに一番適したようにできているが、都会で生活するようになってストレスや化学物質で健康を損なうことが多くなった。体の中でがんに対応するナチュラル・キラー細胞も、森の中で運動すると一番増えるというデータがある」という話を通して、「薬剤師も一般人も薬を使う前にやるべきことがあることを自覚する必要がある。薬は不可欠なものでもあり、同じ薬でも効き方は個々人によって異なる場合が多い。薬の投与方法には十分に注意が必要で、患者の投薬歴、生活環境、

食事内容、文化的背景まで把握して適切な薬を適量投与することが必要である。また、患者の状態を注意深く見守り、効果を見極めながら投与することが重要であることを強調されました。

薬剤師本来の業務へ

パネルディスカッションは、読売新聞東京本社解説部次長で薬剤師問題検討委員でもある南砂氏のコーディネートにより行われました。まず、大阪府薬剤師会会長の児玉孝氏が、「日本では明治以来の富国強兵政策で医薬品の確保が急務であったため、薬学部教育においても有機合成に力を入れ、関心も医薬品製造の分野に向いていたが、昨今ようやく本来業務である医療現場での医師との連携を通じた『治療』に関わる教育が重視されるようになってきた。今後の薬学教育においては、臨床薬学面の教育を重視する必要があるとともに、薬剤師も医療人であるとの自覚を持つことが大事である」と強調されました。

また、「高齢化社会の到来もあり、地域の薬局薬剤師は、薬局を通した地域の福祉への貢献が重要になってきている。その面での薬剤師教育も十分に行ってほしい」との要望が出された。

専門職としての自覚を

名古屋大学医学部附属病院教授の立川幸治氏は、「薬剤師はこれまで、医療現場で受身であり過ぎた。医師、薬剤師、看護師などのそれぞれの分野での専門家が病院スタッフとしてお互いにディスカッションしながらチームで医療にあたる必要が重要な時代になってきている。薬剤師も専門職としての自らの存在と使命感を考えることが必要である」とことを強調された。また、「カルテの読める薬剤師の教育が必要であり、カルテが読めなければ、医師との議論もできない」との要望を出された。

基調講演者の今井通子氏はパネルディスカッションで、「専門知識を持った薬剤師に薬に関する医師の仕事を分担してもらうことは医師としてもありがたいことです。薬のことは薬剤師に任せることができれば楽な面もあるが、そのためには、薬剤師には、病理学や細菌学を学んでもらう必要がある」との要望を出された。

薬剤師は管制官の

意気込みで

以上の意見や要望を受けて、慶應義塾大学病院薬剤部助教で、本学薬学部長に就任予定の森田邦彦氏は、「病院薬剤師には医師の処方せんに沿って調剤す

る業務の他に、医師や看護師と相談して薬の適切な投与方法などを決める投与設計、病棟での患者さんへの服薬指導などの仕事がある。仮に患者さんを乗客、医師をパイロット、看護師を客室乗務員に例えると、薬剤師は安全運行をアドバイスする航空管制官であると自らに言い聞かせ、自覚と責任を持って、医療活動において責任を果していかなければならない。患者さんの薬物血中濃度を分析して、薬品の適切な用法・用量を医師に提言し、抗がん剤の混合調整にも関与して医療ミスを防ぐといった仕事に積極的に関与していくことが必要である。そのため薬剤師には、基礎から応用、そして臨床に至る深い知識と能力が要求される。薬学部は2006年度の入学者から6年制となる。そうなれば4年生までに基礎薬学をしっかり学び、5・6年で臨床薬学を学ぶことができる」と話された。

また、森田邦彦氏は、「同社社というバックグラウンドのあるところで、総合大学の特色を生かして薬剤師教育を行ってきたい。特にキリスト教主義教育による人間教育に力を入れるとともに、海外の進んだ薬剤師のあり方を学ぶために、海外の病院と提携し、学生に海外での薬剤師の活躍ぶりを体験できる機会を与えることを検討している」など、本学薬学部教育の特色についても強調された。

医薬分業が進み、質の高い薬剤師が社会から求められています。高い専門性とともに、キリスト教精神に基づく豊かな人間性をも兼ね備えた一人と向き合える薬剤師を養成するというこのシンポジウムでの女子大学森田潤司学長の挨拶にもあるように、本学薬学部は、新たな時代に適した薬剤師教育を展開していこうとしています。



同志社小学校 斬新な空間設計で夢のある校舎を整備

前号（118号）で紹介しましたとおり、同志社大学では2006年4月開校をめざし、小学校の開設準備を進めています。

特色ある小学校施設の整備

現在、岩倉校地北グラウンドにおいて、株式会社高松伸建築設計事務所による設計監理、学校建築の第一人者である長澤悟東洋大学教授の設計監修のもと、小学校校舎とグラウンドを整備しています。

施設の概要は、12,000㎡の敷地に、ONE ROOM SCHOOLという設計コンセプトのもと全ての施設が集約された1つの校舎（2階建、延床面積約7,400㎡）とグラウンドを配置しています。校舎には、建物中心に配置されたチャペルコート（中庭）を囲んで、1階に低学年普通教室、低学年音楽室、生活科室、講堂兼体育館、給食配膳室、PC教室、会議室、保健室、校務センター（教職員室、事務室、校長室）、図書室を配置し、2階に中・高学年普通教室、高学年音楽室、図工室、家庭科室、理科室、チャペル（150名収容）、放送

室、和室を配置しています。

各普通教室の前はゆつたりとしたオープンスペースを配置し、教室の開口部を大きくとることににより、多様な学習形態に合わせた利用が可能となっています。また、低学年教室にはデンと呼ばれる空間を設けるなど、学年ごとに教室のデザインを変えており、学年の進行にもない変化に富んだ空間で学ぶことができるようになっています。

また、雨水の利用や太陽光発電の導入など環境面、子どもの安全を確保するセキュリティ面にも十分配慮した施設の整備を進めています。

小学校実施計画の決定

2004年5月に学校法人同志社では、大学附属として



チャペルコート（中庭）イメージ図

2006年4月に小学校を開設することを決定しました。それを受け大学では、6月に附属小学校設置準備委員会と附属小学校設置準備室を設置しました。12月には基本計画をもとに実施計画としてまとめ、具体的な規模等を決定しました（詳細は

「同志社小学校概要（予定）」をご参照ください。現在、設置認可申請を行っており、今後開校に向け、教育内容や入試形態などを具体化していきます。

■同志社小学校概要（予定）

同志社小学校の設置は京都府の認可事項であり、以下の内容につきましては、現在本学が計画として検討している内容になります。正式な内容の決定は、京都府の認可を受けてからとなります。

- 1) 名称 同志社小学校
設置形態は大学附属とし、名称は「同志社小学校」とします。
- 2) 開設年度 2006年度
21世紀に入り、教育界をはじめ、様々な局面において日本は混迷の状況を迎えています。このような時代に、学校法人同志社内に可及的速やかに小学校を設置し、創立者新島襄が求めたキリスト教主義を徳育の基本とする幼稚園から大学に至る総合学園を完成することは、同志社に求められる社会的要請であると考えています。
また、2005年は同志社創立130周年の記念すべき年であり、その一環として、2006年4月に小学校を開設することは、同志社教育の新たな地平の開拓になると期待しています。
- 3) 定員 入学定員90名、収容定員540名
同志社のキリスト教主義、自由主義、国際主義に基づく特色のある教育を展開するためには、少人数学級によるきめ細やかな指導が必要であり、基本構想をもとに教育面、施設面など多方面から検討した結果、1学級30名、1学年3学級を想定しています。
- 4) 専任教員数 24名
全学級数は18学級ですが、同志社小学校の教育カリキュラム上の特色であるキリスト教主義教育を中心とする宗教教育や、同志社及び創立者新島襄に関する歴史を題材とする児童の徳育の涵養を充実させるため、副校長、教諭、養護教諭など専任教員数は24名を想定しています。
また、カリキュラムの充実をはかるために、音楽、体育、理科などの専科教諭の採用、法人内各学校教職員の兼任、講師の採用についても検討しています。
- 5) 設置場所 岩倉校地北グラウンド
同志社中学校の岩倉校地への移転を見据え、同志社小学校を岩倉校地北グラウンドに設置することで、岩倉校地に小学校、中学校、高等学校が同一校地に揃うことになります。岩倉校地に初等教育及び中等教育を行う同志社一貫教育域を形成し、キリスト教主義教育による徳育の涵養により、良心を手腕に運用する同志社の核となるべき児童・生徒の養成を目指します。
- 6) 入学生の選抜 詳細は検討中ですが、選考は、多様な方法により児童の素養などを総合的に判断する予定です。
なお、同志社小学校の設置が認可された場合、2005年度同志社幼稚園入園生より同志社小学校への推薦入学制度を設けることになっています。
- 7) 卒業生の進路 法人内中学校への進学を原則とします。

その他詳細および最新情報は、
<http://www.doshisha.ac.jp/daigaku/torikumi/shogakko/zenbun.html>
をご参照ください。

同志社ローム記念館 プロジェクト主義教育の新たな展開と現代GP採択

同志社ローム記念館は、2004年の10月にオープン1周年を迎え、「プロジェクト主義」に基づく新しい人材育成教育が一定の成果をあげ始めました。現在、8つの企業との共同プロジェクトと2つの学生公募プロジェクトが活動しています。また、2004年秋には、これらのプロジェクト活動の実績を踏まえた取り組みが、2004年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されました。全国の大学等559件の申請中から選定率15・4%の難関をくぐりぬけて選定されたのは、「プロジェクト主義教育による人材育成―『プロデュース・テクノロジ』の創成―」という提案内容が高く評価された結果といえます。

企業と共同し、学生から公募して

これまでの主なイベント等の行事は、別添の一览表記載のとおりです。イベント等以外では、「プロジェクト主義」に基づく、企業との共同プロジェクトと学生が自分たちの企画で立ち上げた公募プロジェクトが活発な活動をしています。その中からいくつかを簡単に紹介すると、

- ・e-Learning教材の開発とインフォテール（万世電機（株））は、生涯学習プロジェクト「新撰組の素顔」プログラムを開発、提供中です。また、e-Learningスキルの育成とプロデューサーなどの人材育成をめざしています。
 - ・MS-Colabo（マイクrosoft（株）、デジット（株））は、ワード、エクセルのテンプレート、「2005集等をホームページで公開し、学生の立場に立った情報提供を行うとともに学内ヘルプデスクの活動も実施しています。
 - ・レスキュー・ロボット・プロジェクト（学生公募）では、3チームに分かれてロボットを開発中です。ガレキ除去ロボット、被災者救助アームとガレキ用アームを開発しており、2005年レスキュー・ロボット・コンテスト出場をめざして準備中です。
 - ・学生と地域の連携に基づくコ・エボリューション（学生公募）は、学生と地域を結びつける場と双方に意味のあるコンテンツ（Webサービスを活用したマッチングシステム）提供をめざしています。
- 各プロジェクトは、すでに計画の後半に入っており、3月に

予定されている最終成果報告会の準備に追われていますが、優秀なプロジェクトには、ローム記念館大賞、優秀賞の他、各賞の授与を行います。

プロジェクト主義教育による人材育成（現代GP）

・このような既存のプロジェクト活動をもとに、前掲した2004年度の文部科学省現代GPに次世代を担う人材育成の方法のひとつとして、プロジェクト主義教育による人材育成、「プロデュース・テクノロジ」の創成というテーマで申請しました。

これは産学連携による実践的なプロジェクト主義教育により、プロデュース能力を身につけた人材育成をめざすものです。ここでいう「プロデュース能力」とは、「プランニング能力・発想力、資金調達能力・プレゼンテーション能力、組織

化能力・交渉力などのいわゆる「総合的人間力」をいいます。プロジェクト・テクノロジの創成を通じて、ローム記念館におけるプロジェクト主義教育をさらに加速させるとともに、高等教育における活用をはじめ、企業等産業界にも広く普及させたいと考えています。

この取り組みは、2005年度まで2年間の活動となりますが、最終成果として、プロデュース・テクノロジという概念、スキームを確立すると同時にこの手法を用いて新しい人材評価指標となる「プロデュース・テクノロジ検定（仮称）」制度の創設までを計画しています。

最後に、現在、同志社ローム記念館では、前掲の学生公募プロジェクトならびにコア・プロジェクトの活動資金とするため、「プロジェクト・サポート募金」を実施しています。2004年11月末までに、校友、同窓、教職員の皆様から131件173万4千円の篤志をいただきました。感謝を申し上げます。

（京田辺校地総務課）

※プロジェクト・サポート募金のパンフレット（申込書付）は、下記事務局までご連絡いただければすぐにご自宅までお送りします。また、大学、女子大学、各学校の事務室でもお受けできます。
事務局 同志社大学京田辺校地総務課（ローム記念館事務室）
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
TEL：0774-65-7010・7800 Fax：0774-65-7009
e-mail：jt-somu@mail.doshisha.ac.jp または jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp
URL：http://rohm.drm.doshisha.ac.jp



「MS-Colabo」の中間報告会の一場面